

箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
箕面ユネスコ協会事務局
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20
みのおキューズモール2Fみのお市民活動
センター内 箕面ユネスコ協会（メ・ルック）
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



- ◆ 目 次 ◆
- 活 動 報 告
- お 知 ら せ

♪ ホームページ折々に更新中！
「箕面ユネスコ協会」
で検索してください♡

お米寄贈プロジェクト 新米です！

～ 新米を「子ども食堂」へ ～

福岡県筑後市と、箕面市 らいとぴあの「ぴあぴあ食堂」、へ届けました！

経済的困難や親の不在で十分な食事を取れない子どものために、各地でNPO法人の支援活動が広がっています。手頃な値段で食事を提供したり、食料を無料で宅配したりするなど、スタイルはさまざまですが行政の手が届きにくい中、成長期の健康を見守る貴重な担い手になっています。前回から継続して、福岡県筑後、水田みんなの食堂「上北島教育会館」へ寄贈させていただきました。

さらに、今回初めて、箕面市立萱野中央人権センターの、長期休暇中オープンする食堂「ぴあぴあ食堂」に新米を寄贈することが出来ました。

「ぴあぴあ食堂」は、萱野の北芝地域における課題解決のため、さまざまな活動を起こそうとしている個人やグループを支援する「暮らしづくりネットワーク北芝」さんが行なっています。「暮らしづくり」さんとは「熊本支援でつながる、ゆるやかなネットワーク」で、熊本地震の支援活動等を協働して行っ



ました。これまでも箕面ユネスコ協会の被災地支援活動を支えていただいています。

私たちができること、「こどもの孤食を防ぐ」と「貧困の子どもたちに食事を」子どもたちを元気にしたいと頑張っている皆さんを応援することだと考えます。寄贈にあたり、株式会社アドホックス様はじめとする企業の皆さんからの支援もいただきました。今後も、この活動を継続してまいりますのでよろしくご支援をお願いいたします。

(坂口 一美)



○東日本大震災の被災地を訪ねて～気仙沼・東日本大震災遺構伝承館

～ 東日本大震災から9年半 ～

誰かが伝えなければ同じ悲劇が繰り返されます…

「東日本大震災遺構・伝承館」は未、来に向かって東日本大震災を多くの方に語り続ける施設です。

10月18、19日坂口さんをはじめ7名の会員は、東日本大震災の被害を受けた宮城県を訪問しました。当協会は発足時より「東日本大震災を忘れない」を合言葉に支援活動をしており、その一環としてスタディーツアーです。仙台空港に降り立ち、レンタカーに乗り込んで気仙沼をめざして一路、北へ。

気仙沼向陽高校の旧校舎は、地震と津波の脅威を教訓として伝えるために被災当時のままで保存され、展



示施設を併設する「気仙沼市立東日本大震災遺構伝承館」として昨年開館しました。

館長さんの「当館では被災物そのものを見てほしい。3.11に何が起きたかを知り防災意識や避難の大切さを感じてほしい」という言葉通り、震災遺構の柵内は職員も立ち入らず、手も触れられず、教室や廊下のガラスは大部分が破損しており、雨が降れば濡れ、風が吹けば物が動き、少しずつ風化していくのを見て、震災の記憶、教訓は風化させてはならないと改めて心に刻みました。

震災当時の記録や映像、写真を見た後、震災遺構に足を踏み入れ、窓ガラスのない1階

廊下を進みながら破壊された教室を覗くと机や椅子、コンクリート片が折り重なり、その惨状からは、かつて生徒たちが授業を受けていた姿は想像できません。3階は地上から8mもあるそうですが、ベランダを破壊して突っ込んできた車は、津波のすさまじさを物語っています。4階のコンピューター室には、パソコンが散乱し、津波が12mまで浸水したことがわかります。屋上からは、屋根が流失した体育館が見下ろせ、避難した生徒と教職員たちは机を積み上げて一番高い塔に登って難を逃れたそうです。

旧校舎と北校舎をつなぐ渡り廊下に積み重なったガレキと車の山、津波の恐ろしさを目の当たりして絶句し、全員が無事だったことは奇跡と感ずります。伝承館に戻り、被災者の思いや命の大切さを伝える映像を見ました。生き残った、ある母親は長男の「頑張ろう！」という言葉に「この子の為に生きる！」と前を向く姿に胸を打たれました。

外に出ると、かつてのグラウンドはパークゴルフ場に生まれ変わり、大勢の市民が興じていました。遠くの海岸線には高い防波堤が延々と築かれています。

大震災から9年半が過ぎ、来年は10年という節目を迎えます。復興への道のりの厳しさを感じますが、今回お会いした方々の熱い東北魂に接し、エールを送るとともに今後も継続して支援していきたいと思いを新たにしました。(大槻 晴美)



箕面ユネスコ版 ESD を紹介させていただきます

●箕面市立豊川北小学校 5年生●

～総合的な学習『世界と出会う』～

例年、総合学習で協働させて頂いている豊川北小学校。今年度は、コロナ禍のため活動が制約されましたが、先生方と知恵を絞る中で、新しい形の活動を組み立てることができました。箕面ユ協がつながりをもつ「ネパール」との出会いを通して、世界への視野を広げ、今や未来の生き方に返してほしいと願っての学習です。

11月9日、世界にある識字課題について考えました。とりわけ、マララさんの国連スピーチの動画は子どもたちの心を強く動かしたようです。日本ユネスコ協会連盟が進めている世界寺子屋運動についても紹介させていただきました。



11月17日には、大阪の大学で学ぶルペシュさん

に、ネパールの自然や暮らしについて話していただきました。ルペシュさんが生まれたパンチェット村の山々は息を飲む美しさ。家族を大切にしたい暮らしぶりとともに、お金が必要な場合は大切に飼っている家畜を手放さねばならないこと、過疎化が進み学校が無くなってしまったこと…など、村が向き合っている課題についても

知ることができました。パンチェット村からヴィンゴジ村、首都カトマンズでと学び続け、薬剤師の資格

をとって働き、今は日本の大学で勉強を続けているルペシュさん。「いつの日か、ふるさとの教育を支えたい」という夢についても語っていただきました。



12月11日、オンラインミーティングの開催です。調べをすすめた子ども

たちから生まれた疑問についてインタビューする形で、ネパール現地の NGO (National Resource Center for Non formal Education, Nepal) メンバーのシラさん、スックラさんに答えていただきました。



開始時刻は13時50分。ネパールは10時15分のスタートです。公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の鴨志田智也さん(現地との調整など尽力して下さった方です)が東京より通訳をしてくださいました。

- ・東京オリンピックに参加する予定の選手はいますか？
- ・ネパールの学校ではどんな授業がありますか？コロナでどんな状況になっていますか？
- ・ネパールではどんな作物がとれますか？気候はどうか？
- ・ネパールで今困っていることはなんですか？ …etc.

子どもたちからの質問に、温かい笑顔で応えてくださるおふたり。鴨志田さんは、通訳をしながら、現地で撮った写真も見せて言葉をつないでくださいました。世界にはいろいろな暮らし方がること、だれもが教育を受けられるように活動している人がいること…大切なメッセージが子どもたちに伝わったことと思います。とても温かい時間になりました。

ネパールでも、コロナ禍で閉じられる学校があるなどいろいろな苦しい状況があるそうです。一刻も早く、終息しますように。みんながやさしい気持ちを失わずこの危機を乗り越えられますように。(大濱 淳子)

●「東日本大震災を忘れない」チャリティー物産展 みのおNPOフェスタ2020!

2020年10月25日NPOフェスタが開催されました！ かやのさんぺい橋および屋外周辺エリアで、新型コロナウイルス感染拡大に十分な配慮を行ったうえで実行されました。

天候にも恵まれ、キューズモールの映画館では「鬼滅の刃」無限列車編が公開中で、子ども連れや若者も多く、さんぺい橋も人通りも多く盛況に開催されました。販売のメインは宮城県気仙沼向洋高産業経済科の生徒が作った気仙沼産サンマを使ったサンマ缶です！復興の願いを込めて作られた4ケースサンマ缶96個、完売ありがとうございました。



お知らせ

「食を楽しむ会」は延期します。

例年この時期に開催し、8回目を迎える、被災地気仙沼を応援する「食を楽しむ会」は、今年度も2月13日（土）に予定していました。

コロナ感染が広がるなかで、残念ながら延期とせざるを得なくなりました。今のところ、早ければ5月の箕面ユネスコ協会の総会と併せて開催する予定です。

コロナが早く終息することを祈りながら、皆さまとお会いできる日を心待ちにしています。あらためてお知らせしますので、多くの会員の皆さまに御案内させていただきます。

■コロナ感染拡大下で、活動が制約されていますが、箕面ユネスコとしてできることが何かあればお知らせください。

みなさんとともにがんばっていきたくと思います。